

問1 4世紀から7世紀にかけて近畿地方を中心に勢力を広げた勢力を何という？

1. ヤマト王権 2. 平安政権 3. 奈良政権 4. 飛鳥政権

問2 中国の歴史書に記されている、5世紀頃に南朝へ朝貢を行ったヤマト王権の5人の王をまとめて何という？

1. 倭の五王 2. 小野妹子 3. 聖徳太子 4. 三種の神器

問3 5世紀ごろ、日本へ移り住み、高度な技術や文化を伝えた人々が由来した朝鮮半島の国家を何という？

1. 高句麗 2. 任那 3. 新羅 4. 百済

問4 仏教を深く信仰し、政治や文化に取り入れることで、新しい文明の定着に努めた人物は誰？

1. 中大兄皇子 2. 聖徳太子 3. 物部守屋 4. 蘇我馬子

問5 6世紀、百済から日本へ正式に伝えられ、日本の政治や文化に大きな影響を与えた宗教を何という？

1. 道教 2. 儒教 3. 神道 4. 仏教

問6 ヤマト王権の支配力が関東地方まで及んでいたことを示す、埼玉県から出土した重要な鉄剣が見つかった古墳を何という？

1. 稲荷山古墳 2. 高松塚古墳 3. 江田船山古墳 4. 石舞台古墳

問7 埼玉県行田市の埼玉古墳群のひとつで、金象嵌の銘文が刻まれた鉄剣が出土したことで知られる古墳は何という？

1. 江田船山古墳 2. 稲荷山古墳 3. 石舞台古墳 4. 高松塚古墳

問8 埼玉県稲荷山古墳から出土した鉄剣に、その名が刻まれているヤマト王権の最高権力者は誰？

1. 継体天皇 2. 推古天皇 3. 欽明天皇 4. ワカタケル大王

問9 ヤマト王権が鉄資源を求めて使者を派遣した、中国の当時の王朝を何という？

1. 南朝 2. 北朝 3. 東晋 4. 西魏

問10 ヤマト王権の支配力が拡大する中、全国に広まった巨大な墳墓の形を何という？

1. 円墳 2. 前方後円墳 3. 前方後方墳 4. 方墳

問11 古墳時代に輸入された鉄を利用して作られ、農業生産力を向上させた道具を何という？

1. 鉄製農具 2. 石製農具 3. 青銅製農具 4. 木製農具

問12 3世紀後半から奈良盆地を中心に広がり、各地の豪族を従えて日本列島の広範囲に勢力を及ぼした政治連合は何という？

1. 奈良政権 2. ヤマト王権 3. 飛鳥政権 4. 平安政権

問13 6世紀半ばに、日本の欽明天皇へ仏像や経典を贈り、仏教を公式に伝えた百済の王は誰？

1. 聖明王 2. 用明天皇 3. 敏達天皇 4. 欽明天皇

問14 熊本県から出土した鉄刀の銘文に漢字が刻まれており、当時の日本で漢字が使われていたことを示す古墳を何という？

1. 大仙陵古墳 2. 高松塚古墳 3. 江田船山古墳 4. 稲荷山古墳

問15 日本各地で首長の墓が作られ、広い範囲で勢力を広げていた当時の政治的なまとまりを何という？

1. 飛鳥政権 2. 平安政権 3. ヤマト王権 4. 奈良政権

問16 古墳の内部に死者の権威を示すために納められた鏡などの品々を何という？

1. 封土 2. 副葬品 3. 木棺 4. 壁画

答え合わせ・解説

問1	答え 1 ヤマト王権	ヤマト王権は、近畿地方を中心に各地の豪族と連合して国内を統治する政治組織です。有力な豪族を従え、朝鮮半島との外交や、大陸からの進んだ技術を取り入れることで富を蓄えました。大王を中心とした豪族の連合体という性格が強く、次第に中央集権的な国家へと変化していきます。
問2	答え 1 倭の五王	記録に残る王は、讃・珍・済・興・武の5人です。特に最後の「武」は、国内から出土する鉄剣の銘文に見られるワカタケル大王と同一人物であると考えられています。彼らは中国皇帝に軍事的な支持を求める使節を送り、国内の権威付けを行いました。
問3	答え 4 百済	百済から移り住んだ渡来人は、先進的な技術を持った職人や学者、僧侶などでした。彼らは日本の豪族と協力し、土木工事や農具の製作、さらには学問や宗教の導入に多大な貢献をしました。当時のヤマト政権にとって、百済は重要な協力関係にある国でした。
問4	答え 2 聖徳太子	聖徳太子は仏教の教えを「和」の精神として政治の基礎に据えました。「十七条憲法」を制定して役人の心構えを示し、「冠位十二階」で才能に基づいた官職登用を目指しました。また、法隆寺の建立などを通じて仏教文化を保護し、国全体に新しい文明が定着するように努めました。
問5	答え 4 仏教	仏教の伝来は単なる宗教の広まりにとどまらず、新しい文明の到来を意味しました。特に、仏教が持つ高度な建築技術、芸術、そして教えは、当時の朝廷にとって大きな魅力でした。そのため、仏教を受け入れるかどうかを巡り、蘇我氏と物部氏の間で激しい争いが起こるなど、政治的な影響も及ぼしました。
問6	答え 1 稲荷山古墳	埼玉県にある稲荷山古墳から出土した鉄剣には、金象嵌で文字が刻まれていました。この文字には「ワカタケル大王」という当時のヤマト王権の王の名前と、その王に仕えた人物の系譜が記されています。これによって、関東地方の豪族がヤマト王権と密接な関係を持っていたことが証明されました。
問7	答え 2 稲荷山古墳	稲荷山古墳は、埼玉県行田市の埼玉古墳群にある前方後円墳です。この古墳から出土した鉄剣には、115文字からなる金象嵌の銘文が刻まれていました。この銘文により、当時の大王の名が判明し、ヤマト王権の支配が遠方まで及んでいたことが証明されました。
問8	答え 4 ワカタケル大王	ワカタケル大王は、当時のヤマト王権の最高権力者で、一般に雄略天皇と同一人物であると考えられています。稲荷山古墳の鉄剣に名前が刻まれていることは、当時の王権が東国にまで影響力を持っていたことを強く示しています。
問9	答え 1 南朝	ヤマト王権は、中国との外交関係を通じて、その権威を借ることで半島への影響力を強めようとしていました。中国へ使者を派遣して朝貢することで、最新の技術や鉄資源を優先的に入手しようとしたのです。当時の中国は南北朝時代であり、南方に位置する「南朝」と主に外交関係を持っていました。
問10	答え 2 前方後円墳	前方後円墳は、四角い「前方部」と円形の「後円部」を組み合わせた特徴的な形状で、規模の大きさはそのまま権力の大きさを表していました。近畿地方から始まり、王権の広がりとともに全国へと普及していきました。
問11	答え 1 鉄製農具	鉄製の鋤（すき）や鋤（くわ）などの鉄製農具が普及したことで、それまで開墾できなかった硬い土地の耕作が可能になりました。これにより稲作の効率が飛躍的に高まり、収穫量が増加しました。さらに鉄は武器の材料としても使われ、ヤマト王権の軍事力強化にも大きく貢献しました。
問12	答え 2 ヤマト王権	ヤマト王権は、現在の奈良県周辺を拠点とし、強大な力を持った豪族の連合体です。大王を頂点として組織され、各地の豪族を服属させることで支配地域を拡大していきました。朝鮮半島との外交や、大陸の進んだ技術の導入に積極的に取り組んだのが特徴です。
問13	答え 1 聖明王	聖明王は、外交的な贈り物として仏教の教えを選びました。欽明天皇に献上された仏像や経典は、日本にとって初めて本格的に触れる異国の教えでした。これが日本に初めて正式な宗教としての仏教が根付くきっかけとなりました。
問14	答え 3 江田船山古墳	江田船山古墳からは、金銀象嵌（ぞうがん）が施された鉄刀が出土しました。その刀には、所有者や当時のヤマト政権の王に関係すると思われる漢字が刻まれていました。これは、5世紀から6世紀にかけて、日本の地方豪族が漢字を読み書きし、ヤマト政権との間で政治的なやり取りを行っていたことを裏付ける重要な史料です。
問15	答え 3 ヤマト王権	ヤマト王権は、古墳の築造や鉄製品の供給などを通じて各地の豪族を統制しました。王は各地の豪族に地位や官職を与え、権力体制に組み込んでいくことで日本全国への支配を強めました。前方後円墳が全国に築かれていることは、この勢力が全国に及んでいた証拠といえます。
問16	答え 2 副葬品	銅鏡、勾玉（まがたま）、鉄製の武器や農具などが代表的な副葬品です。これらは当時、非常に貴重な宝物や技術の象徴でした。また、墳丘の上には土製の埴輪が並べられ、埋葬された人物の威厳を周囲に示しました。